

・雨でも休まず、195回、196回、・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1：小原本陣の森：7月 1日：第一土曜日、参加費400円

森林整備・担い手育成

- ・ 定例活動2：若柳嵐山の森：7月15日（第三土曜日）、午後～16日（第三日

曜日）、参加費400円： 里山交流：多様な森林活動

* 15日は、蚤可能性調査・夜の森観察、森泊まりになる。

- ・ 服 装：汚れても良い格好、着替え、濡らない足元。

- ・ 持 参：軍手、なるべく皮製、寝袋・テント泊まりの用具持参のこと
万一のケガに備えて・・・保険証、食器(碗・箸)。
そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとりと、怪我をしないこと」

「違法伐採なし・・・ 広がる製品認証」

表題は、5月9日付けの朝日新聞の記事である。今春から政府の買い上げる紙製品や木製品は、原則として違法伐採でない証明が必要だということである。同様の方針を打ち出す企業も見られるようになってきた。地球から毎年、日本の面積の三分の一に近い森林が減っており、違法伐採がその原因の一つであるから、このような方針が出されるのは遅きに失したきらいさえある。

日本は世界第二位の外材輸入国で、その中に違法伐採による木製品が大量に含まれていることは間違いない。その量は大体、20%程度と言われている。この欄でもたびたび、森林を荒らすことの不可を述べてきたが、国が強硬な手段を取らなければ行動に移せない事業者の節操のなさには怒りを乗り越えて憤けなささえ覚える。

「違法伐採なし」を進めるのは、ドイツに本部を置く FSC：森林管理協議会で6月現在、世界72カ国817カ所、日本では24カ所の森が認証されている。わが国では違法伐採はないが、放置して荒れるに任せた森林が急増している。これを止めたいとするのが「国内認証 SGEC：持続的緑化システム認証協議会」である。どちらも、森林を大切にしようとするのだから協力し合って、認証の森づくりをしなければならぬ。森林を大切にしなければ人類は生き延びれない故、「普通の人々の集団」である当会が、認証の森管理者になった意義は高い。

・・・当会は、森林を守りこれを世界に向けて訴える使命を負った。

活動報告1：小原本陣の森：6月 3日（第一土曜日）

担い手育成・技術向上の森

報告 山本 晶子

曇り、場所により雨・・・山中は降らず。

相模湖駅から約30分の道のりは、ノンビリ景色を眺めながら旧道を歩くのはオフなもの。でも、なかなかどうして30分の歩行は、作業前の準備運動以上。作業開始時間にも支障が出てくる。そこで、今回、初めての試み、電車で参加するメンバーは9時15分相模湖駅前集合とし、車で活動に参加するメンバーの送迎にて、「小原の森」基地への移動時間がだいぶ短縮できた。そして、集まった30名の参加者は、各班の活動へ向かった。

間伐班は13本伐採し、石井山の上部はほぼ完了。力仕事となった土留め班も予定通り作業完了。ボサ刈り（蔓切り）は、やってもやってもキリがない。やればやるほど作業場が増えるという不思議な現象を引き起こした。

新ルートに指定された東海自然遊歩道調査に向かったメンバーは、道なき道を歩き、へトへトになり戻ってきた。

高校生の若い力で道普請、これで排水溝は問題なし。午後から、炭窯班も登場、たき口作りに励んだ。作業中は、雨にも降られず、帰りは数台に分乗し、本日の作業も無事終了。

活動報告2：若柳嵐山の森：6月18日（第三日曜日）

里山交流の森、緑のダム体験学校

天気予報は終日雨、予報の通り雨、しかも午後は殆ど間断なく降る雨だが・・・、森林にとっては、恵みの雨。参加申込みは96名で、不参加連絡は13名でも、飛び込み申込みは東海大（グリーンコミュニティ部：新設）の杉山部長・飯田リーダー他15名、・・・で差し引き96名。

* 雨の日の森は・・・、森は危険か。

この森では、雨に対する備え：身支度と心の構え・・・があれば問題なし。勿論、(本当に危険な豪雨・台風は論外だが)水は命＝慈雨、静かに降り注ぐ雨は、森にも人にも優しい。

* 緑のダム体験学校

この日、県企画部、相模湖町・環境経済課との共同企画の第4回目。参加：相模原市の環境団体6名、東海大から



森の中の体験学校

7名、初参加3名、計16名。

小学館発行のベストセラー「植物図鑑：この木、なんの木」の著者・林村之講師が丁寧に楽しく体験学校を進めた。葉っぱで見分ける木の種類、手入れした森としない森、広葉樹と針葉樹の機能の違い、FSC認証の森の認証の前とあと。

かなり難しい話を易しい言葉で、林が参加者に語りかける。森の中の体験学校は、教室の中の講義に遥かに勝る真実を教えてくれる。



夏の暑気持は苦しい

後日談：日曜日の、この雨の中、県企画部の高橋さん、町役場の岩田さん、榎本さんが参加してくれた。参加のお礼の電話をした。以下、高橋さんの参加印象談。

「緑のダム活動は、全くの自由意志で指示・命令はないと聞いていました。それで森林活動の規律が守れるのだろうか、危険管理は出来るのだろうかと疑問に思っていました。体験学校に参加して、その通りになっていました。

その理由を齊藤学校長に聞いてみましたら、「森の仲間たちは森林が大切だ・森が好きだという共通の想いで結ばれています。各人がその想いを大切にしているから指示・命令と言う強制力に頼らず各自が自覚して行動しつつ、互いに注意し合って規律が守られるのです」と言うことでした。

若柳嵐山の森から1・・・榎井尚武さんのこと

初参加の一人に林野庁を定年退職後、日大教授をしているという榎井さんと言う人がいた。声・要望・雰囲気は何処かで見たお人だと感じた。昼休みに・・・

「しばらく石村さん、榎井です」

「エッ、アッ!!、森林総研の榎井尚武さん？」

月尾先生から「NPO活動は世論が動かして本物、やってみろ」と気合を入れられ、榎井さんとは9年前、森林を教えることに初めて林野庁を訪ねてお会いした時に始まる。当時、林野庁の何とか企画官だった榎井さんからは「国と話し合いが出来るまで上って来い」と気合を入れられた。その後、森林総研の統括官になったその榎井尚武さんであった。

国と話し合いするところまでは行っていないが県のお手伝いをするところまでは行っている。全く以って森は、不思議なことをしてくれる。

若柳嵐山の森から2・・・森林のご縁

投稿 飯田 恒平

東海大：グリーンコミュニケーションズ

自然環境の異常を感じ始めたのは何時からだったのでしょうか。猛暑の夏が続き、雨の降らない

月が増えたこと。その違和感以上のものを昨年、内モンゴル自治区タブチ砂漠の果てしなく続く砂漠で感じました。

当部の目的は自分の周囲の環境にもっと関心を持って貰い、人にも地球にも「より良い環境＝緑を作る」ことです。「NPO法人緑のダム北相模」とのご縁は、私が「望星の森」に取り組む望星高校の卒業生であり、「緑のダム・森の活動」に実際に参加することによって本学の学生の環境意識を高めて行ければ良いと考えたからです。

緑のダムの森林活動は、世代を超えた交流の場であり、森の現場には都会では味わえない自然の豊かさと厳しさがあり、私に何ともいえない充実感を与えてくれます。

2月に活動を始め4月には大学から団体として認めてもらうようになりました。活動は大学内でのゴミ箱問題、校舎の屋上緑化、校内打ち水作戦など身近な私たちの周囲の環境問題から、中国の砂漠緑化を始め、最終的には世界規模の広さに視野を広め、環境活動の企画運営、参加をして行く予定です。また、多くの学生に呼びかけると同時に、東海大独自の森づくりに取り組んで行く考えです。

第四期：通常総会 森の活動終了後、16時から開催。於：相模湖交流センター

- 議題 1、前期2005年度：活動報告・収支決算
2、今期2006年度：活動計画・収支予算

＊ 議題の1・2について聴調に発展している当会の活動に特に疑問とするところは無かったが会計監査の谷田部会計事務所から鳥場会計士が来てくれて、質問に丁寧に応じてくれた。

- 3、役員改選 理事長交代。(理事：瀬田峻二氏、引退申し出あり：欠席)、監査交代、

代表理事 鈴木重彦氏から永井宏一氏(5月号で紹介)に交代した。

監事 鹿島田功一氏(前観光協会会長)から所谷嘉昭氏(現観光協会会長)に。

＊ 新監査役：所谷嘉昭氏；相模湖観光協会会長、ツバメ観光(株)代表取締役

- 4、その他：一般的な質問が出た。

質問1：認定NPO法人の意思はあるかどうか。

答：意思はある。日本では寄付思想が希薄であるため難しいが挑戦する。

質問2：行政の補助金制度をどう思うか。

答：民間の法人活動に行政の短期会計制度には無理がある。対策を考える。

総会后、館内ルンボンで懇親会を和気藹々と18時に終了した。

報告：新月伐採・葉枯らし・巨木杉

地球の引力の関係か、定かなことは分かっていないが月が完全に欠ける新月の日に木を伐って、其れを木の五分の一ばかりの葉を残して自然乾燥すると、製材したときに素晴らしい美しい木目と木肌が出るという。

溪谷沿いの「巨木150年杉の森」の曲がり木や枯れ木、欠頂木を整理して「巨木：美林の森」にしようとしてこれらを除伐することにした。建具組合から「泉の木使い運動の展示会」に出品したい。2本ばかり良い木が是非、欲しい。それを、新月伐採、葉枯らし乾燥でやってみよう」と言うことになって切らせて貰った。2月の新月の日に伐って、4ヶ月、葉枯らしをかけての5月30日に搬出した。

この木は、溪谷沿いの北斜面にあり、木目が詰まっております。昔は京都・北山から買いに来て「北山杉」として売られていたそうである。写真は、その伐採・搬出風景である。なるほど、素晴らしい木目の巨木杉であった。建具組合では、叙勲の名工の手で百年・二百年と後世に残る名品を作る計画である。



巨木杉の伐採・搬出状況

活動報告：緑のダム・北鎌倉

報告 北鎌倉事務局 兼松まゆみ

北鎌倉の禅寺・東慶寺の活動を始めて、はや1年半が経ちました。本道のすぐ裏の斜面の広葉樹が、竹の侵食により枯れが目立ち、其れを止めるためと隣の軒のない暗い竹林を明るくするための処置で、景観回復・除伐を行い約300本近くを切り、風通しをよくする事で月ごとにストックし、用途に応じて引き出し、竹炭・青竹製品・垣根・イベントに使う食器・植木鉢など、機会あるごとに積極的の声掛けして使えるものは使うという気持ちで関わり、得られた資金で道具増やしをやってきました。

成果は、はや、今年4月、竹で隠れていた桜が一段と華やいで、対岸の家々から見え、5月には例年よりはるかに上回る竹の子が収穫できて、お寺様に喜んで頂けたこと。それは当たり前のことですが、一番嬉しいのは、「匠の市」を主催されている「北鎌倉町づくり協

議会」の方々との輪が広がり、私たちが溶け込んでいることを行っていることです。この活動の大事なところは、地域になじめることです。「匠の市」では、環境を守るという好きなことをさせて頂きながら、活動費＝経済も生み出せることもわかりました。

若柳嵐山の森から

・ニホンミツバチがやってきた

報告 黒川 得和



匠の市に出展

ようこそおいでくださいました・・・

今年春の分封シーズンに三群のニホンミツバチが来てくれた。全て待箱に分封飛来したものだ。最初に気づいたのは5月4日。桐の木の根元の待箱に1群、柳の木の根元に1群。次は、5月21日に3群目が杉の根元に入っていた。その一方で昨年棲みついていた1群は越冬できず滅亡。差し引き3群が嵐山の森にいることになる。そして、全群がニューフェイスなのだ。ようこそおいでくださいました。

待箱は角胴タイプと重箱タイプのを15ヶ所ほど4月から仕掛けておいた。数年前に設置した重箱タイプにはまだ、棲みついていない。

ニホンミツバチは、飼育箱が気に入らないとたびたび逃去するので結構難しい。巣内をいじくったり、巣虫がはびこったり、スズメ蜂から攻撃を受けたりすると巣を放棄して逃去するが、スズメ蜂の攻撃に対して対処方法を見につけているのが日本古来の蜜蜂だ。ニホンミツバチは、野性味あふれ手間隙掛ける管理飼育には向いてなく、ある程度放って置いても良いのです(続く)

予告1、蜜・生息調査 ; 7月15日(第三土曜日)

投稿 佐々木博基



カット：野沢由美

巣だいるかどうか確認できていなが、7月15日(第三土曜日)は、蜜の生息状況を調査します。地のホタルを森でキャンプ用の防虫テントを張ってつかまえます。ほかに、私が飼育しているヘイケホタルを少し400匹～500匹程度持参しますが、希望者にはケースに入れて差し上げます。そして約2週間ほど後、ホタルが水苔に産卵する状況のを、観察して貰います。ケースをその状態のまま私に預けて頂ければ産卵、幼虫にまで育てます。幼虫を育ててみたい方には、ご指導します。

この佐々木さんと言う人が不思議な人で、木工品づくりや

大手ハウスメーカーも・・・



某ハウスメーカーのマーケティングの統括と商品開発責任者とが相模川流域FSC材の可能性調査に取り組むことになった。

活動アンケート第5回

FSCは、問題があればそれを一つずつ解決することを求めている。そこで当会活動のどこに問題があるかアンケートを行った。208件のアンケートに対して38項目、58件の回答が得られた。昨年11月から今年4月までの全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任)について解答してきた。今回は森林管理の内、保育に関する疑問・意見・提案を取り上げる。忌憚のない反論・異論を提供されたい。

(森づくり作業：保育)

提案：夏場、ボサ刈りに参加していて、幼木を刈り取ることがあり勿体ないなと思うことがある。活動資金づくりに苗木販売も視野に入れることは出来ないでしょうか。間接情報しか、持たない者の意見ですが(県・流域)。

回答：回答者も素朴にそう思うこともあります。こんな素朴な疑問こそ市民運動の良いところ。時々、聞きかじりか、本から仕入れた知識を振りかざし「広葉樹か、針葉樹か」を論じる人がいますが、困ったお人だと困惑することがあります。

実際のところ、このような幼木を採取して苗床に移して育てようとしても皆く育ちません。土質やその周辺の環境に幼木が適応できないからです。その幼木を、その場で育てるとしたら大変な手間がかかります。当会はボランティア活動で月一回の活動日にここに来て、その幼木の面倒を見れる人がいるなら別です。また、苗木を育てて売れるようにして経営を継続するには、相当の資金と経験が必要です。我々の森にある若木を売って活動の足しにすることは不可能です。素っ気ない回答で申し訳ないのですが、専業としてやるのなら兎も角、会として取り組むにしても、利益を出して活動費を作るには殆ど無理なことです。

県の専門職でない方が、このようなことに関心を持って貰えるのは嬉しいです。

「ロハス」という言葉を知ったことがありますか？。英語の頭文字をとって造った造語です。意味は、生活スタイルを持続可能な考えでいこうという循環型社会のことです。カタカナ文字なので何となくピンと来ませんが直訳するとそうなります。

7月1・2日、東京ビッグサイトで「住宅リフォームフェア」が開催されます。主催者の出展ブースが「ロハス体験コーナー」です。そのロハス体験コーナーを貸したいただけのことにしました。川崎ネイチャーフェスティバルと同じような衣食住の情報発信基地です。衣食住の職人さんと一緒に出展します。桂川・相模川流域FSC材を床に並べてデッキをつくります。周囲は珪藻土の壁、無農薬の畳を敷き、オーガニックカフェを併設させます。

FSC材とは、持続可能な山林づくりと林業経営を目指す森林から出荷された木材のことを言います。森林に利益（お金）が戻せる仕組みづくりを目指しています。「木を使うことが、水源の森を守ること」になるのです。即ち、私たちは「桂川・相模川流域の木材が、首都圏に直に流通する仕組みづくりに取り組みんでいます。そして、建物づくりに関わる全ての職人さんたちが、適正価格で適正に利益を得る仕組みづくりに取り組みんでいます。森林資源の生産～消費に関わる全ての人々が「人間らしく生きること」を持続的に可能とする経営体の構築です。

「住まい：住環境」に関わる職人さんたちが建築と言うハード面だけでなく「衣・食・住」全てを含めて生きる仕組みづくりです。住い＝生活です。生活する人がいます。私は、住まいを通じて「生きる」を様々な切り口で提案し、一生お付き合いさせていただきます。

FSC認証材には、違法伐採禁止と言う意味が込められています。このコーナーで、この意味をグリーンピースの皆さんに説明して頂きます。私の住む「桂川・相模川流域の木材」を使うことがCO2削減、地球温暖化を防ぐ運動に繋がります。私たちは、木材を運ぶトラックを植物油で走らせる試みにも取り組んでいます。次回は、ビッグサイトでの現場状況を報告しますが、その次に、植物油でトラックを走らせる話：「菜の花プロジェクト」も、ご紹介します。

活動のモットー： 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ボチボチと・・・

そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称： さがみ湖・森づくりの会：NPO法人緑のダム北相模/森林部会

事務局： 154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9

発行人：石村 貴仁 T&F 03-3411-1636

HP：<http://midorinodam.jp/>

E-mail：moritomo@rkk9.so-net.ne.jp

協 働 団 体：神奈川県(企画部、環境農政部、県北地域県政総合センター森林部)、



ご支援団体：WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建設組合
東急コミュニテイ、ゴールドマン・サックス証券